

# 「シーガー使って今日も快釣」 吉岡進のワンポイントアドバイス

★今回はダントツ釣果を上げた吉岡進さんに好釣の理由をお聞きした。使用したラインは「シーガーPEX8」の0.6号、リーダーは「シーガーグランドマックスFX」の2.5号を3メートル。強度、感度に関してもオールシーズン使用可能な、ティップランでは盤石の組み合わせ。餌木は3.5号40グラム、カラーについてはパープルに分があったとのこと。当日は根掛かりの多いポイント、船の流れも速かったので、「頻繁な餌木の上げ下ろしに徹しました。タナも少し上ずっていたように思えたので、シャクリの回数を増やしました」とのこと。ティップランに関しては、それほど回数をこなしてはいるわけではないが、さすがルアーフィッシングの雄、皆さんのよい手本になったようである。

## シーガー PEX8

★ティップランにおすすめの道糸はシーガーPEX8、0.4~0.6号。150~300m巻き(0.4号は200m巻きまで)の5アイテム、価格はオープン



## シーガーグランドマックス

★ティップラン FX  
におすすめは2~3号。0.3~10号まで19アイテム、各60m巻き、メーカー希望本体価格3200~6000円



▲粕川さんは初挑戦で2杯とはさすが  
▼鈴木さん唯一の1杯は当日最大の1.2キロ



▲今井さんも納竿直前に乗りをとらえた  
▲執念の1杯は0.5キロ級  
▼北の強風、途中から雨という悪天候ながら、だれ一人竿を置かなかつた



▲1キロ級の大型含み6杯の釣果

▲ヤリトリしながらアドバイスする余裕も

「ティップランは管轄外ですから」というのが残る5人の言い訳。久しぶりに顔を合わせるメンバーもいて、親睦会は楽しい雰囲気です。

中盤からは風も強まり、雨も降り出す最悪の条件となるが、船上は暑い熱気に包まれ、だれ一人竿を置こうとしない。そのまま13時の沖揚がりを迎えた。釣果は吉岡さんが6杯でダントツ。残念ながら大山雅幸さん、中村透さんが型見ずに終わった。それでも最終笑顔の絶えない船上で、

押巻は鈴木新太郎さんの船中最大となる1.2キロ、今井寿美礼さんには0.6キロ、粕川さん0.4キロ級を追釣。その間、吉岡さんはタコを釣るわ、モンゴウイカも釣るわの独り舞台。

合わせ、取り込みのすべてが手本となる動作で0.8キロ級の良型を釣り上げた。メンバーからは「さすが」の声。乗りが遠のいたところで城ヶ島沖へ大きく移動。いの一竿に竿を曲げたのは吉岡さんで0.5キロ級、続いて、続いても吉岡さんで、メンバーはあっけにとられるばかり。そこで吉岡さんからタナ取り、餌木のセレクトなどのアドバイス。すると、ポツポツながらほかのメンバーにも乗り始める。

しばらく乗りがなく、流し変えを繰り返す。1時間ほどして、なんと初めて乗りをとらえたのがこの釣り未経験の粕川晃さん。代用のシロギス竿を曲げて取り込んだのは0.5キロ級の本命第1号。これにはメンバーもびっくり、そして大絶賛であった。

続いてはゲストの吉岡さん。さすがルアースタッフ、シャクリはもろろん、そして大絶賛であった。しばらく乗りがなく、流し変えを繰り返す。1時間ほどして、なんと初めて乗りをとらえたのがこの釣り未経験の粕川晃さん。代用のシロギス竿を曲げて取り込んだのは0.5キロ級の本命第1号。これにはメンバーもびっくり、そして大絶賛であった。

釣れる釣れる釣れる  
釣れる釣れる釣れる  
釣れる釣れる釣れる  
釣れる釣れる釣れる

## Challenge #57 三浦半島長井荒崎港出船のアオリイカ シーガー船フィールドスタッフ ティップランアオリで 忘年親睦釣行会



★突き出しの釣り座でバシバシと竿を曲げていく



★この日は吉岡さんの独り舞台。まず1杯目は0.8キロ級



◎この日参加したクレハ船フィールドスタッフのメンバー。左から鈴木新太郎、吉岡進、今井寿美礼、粕川晃、大山雅幸、中村透の各氏

◎クレハ合繊が提供する「シーガー」には、釣りのジャンルによって多くのフィールドスタッフが名を連ねる。船釣り部門にもアドバイザー、インストラクター、フィールドテスター多数が在席し、日々の釣行で商品アピールに務めている。今回はシーガー船、関東のフィールドスタッフが一堂に会してアオリイカに釣行した模様をお届けする。

ひとくちに船釣りと言っても様々なジャンルがある。シーガーフィールドスタッフも、それぞれの得意分野を生かしてユーザーに製品特性をアピールしている。今回、クレハ合繊スタッフの忘年親睦釣行会を企画し、釣り物として選んだのがティップランアオリイカ。あえて参加メンバーの担当外で決めたようである。今回はオフショアインストラクターの吉岡進さんも含めての釣行だった。

都合で参加できなかった方もいて、結局集まったのは6人。三浦半島長井荒崎港の丸伊丸からの仕立船である。6時過ぎに出船し、10分ほど走った25メートルダチで第1投となる。風も強く、船の流れが速いのでほとんどの方が40グラムの餌木でスタート。アオリイカは初期の数釣りパターンが終わり、これからは良型狙いのシーズン。それはメンバー全員も理解しているようで、出船前は型さえ見られればと口をそろえていた。

★鈴木新太郎さんも後半戦に入ってようやく竿を曲げた